

国立大学法人山口大学長の業務執行状況の確認結果について

令和4年3月18日
学長選考会議

国立大学法人山口大学長の業務執行状況の評価に関する規則に基づき、国立大学法人山口大学の運営の適正を図るため、次のとおり学長の業務執行状況を確認しましたので、その結果を公表します。

1. 評価対象期間

令和3年2月から令和4年1月まで

2. 経過

(1) 第69回学長選考会議（令和3年12月23日）

学長の業務執行状況の評価方法やスケジュールについて確認し、次回の学長選考会議において、面談を実施することとした。

(2) 第70回学長選考会議（令和4年2月21日）

次の資料を参考に、学長と学長選考会議委員との面談を行い、業務執行状況について確認を行った。

- ・自己評価書
- ・所信表明書（[1期目]平成25年9月12日，[2期目]平成29年8月22日）
- ・監事監査意見書・報告書（令和2年度）
- ・国立大学法人評価委員会による業務の実績に関する評価結果（令和2年度）
- ・明日の山口大学ビジョン2015

(3) 第71回学長選考会議（令和4年3月18日）

学長の業務執行状況の確認結果について、最終的な確認を行った。

3. 確認結果

学長選考会議は、上記の経過を経て、令和3年2月から令和4年1月までの学長の業務執行状況についての確認を行った。教育面、研究面及び経営面等のそれぞれの項目の中で、特筆すべきは以下のとおりである。

教育面としては、文部科学省「デジタルを活用した大学・高専教育高度化プラン」に2分野が採択され、デジタルを活用した教育の先導的なモデルとなる取組が進められている。2分野採択は、全国で9大学であり、他大学より先駆けて取組んできた成果である。また、JST 次世代研究者挑戦的研究プログラムにおいて、世代及び専門分野を超えたグループが課題解決に挑むプロジェクトが採択され、優れた研究者・高度専門職業人の育成が期待

される。その他、全学生に対する知的財産教育とデータサイエンス教育を基盤とした Society5.0 に対応する教育研究の改革を進め、時代に応じた山口大学ブランドを学生に身に付けさせるとともに、理学部の学科再編及び文系大学院の改組にも尽力している。

研究面としては、産学公連携を推進し、連携講座の増加に加え、重点研究分野での新たなバイオエネルギー技術による発電システムの開発など、成果を上げている。また、学内では、文理融合研究を推進し、「山大 100 人論文」「コロナ時間学プロジェクト」などの斬新な取組により、若手研究者を含む研究交流の活性化につながっている。そして、「グリーン社会推進研究会」は、文系理系を問わず山口大学の英知を結集し、脱炭素社会の実現という社会的課題に挑むことで大学の価値を示す、という岡学長の強い意志が現れており、社会の期待に応え、山口大学の真価を示す取組として今後の発展に大いに期待する。

地域貢献としては、やまぐち未来創成人材育成・定着促進事業のさらなる進化に向けて、177 の企業・自治体等による事業協働機関と連携しながら、地元就職率の向上等、若者定着促進に尽力している。山口学研究プロジェクトにおいては、文化財修復や無線 LAN 技術によるスマート商店街の構築など、地域に根差した独創的な研究を展開し、着実に成果を上げている。また、学祖上田鳳陽先生の顕彰碑を大学が受贈しキャンパス内に設置したことは、学生や教職員が創基 200 周年を超える山口大学の歴史の重みを身近に感じることができる意義ある功績である。

経営面としては、令和 3 年度は附属病院の収入増等の要因により、当初予算に対し増収が見込まれている。施設整備については、様々な設備を兼ね備えた民間学生寮ユニ・エターナのオープン、工学部・医学部の図書館改修、老朽化した文化サークル棟の建て替え等、学生の目線に立った環境整備を積極的に実施された。

新型コロナウイルス感染症対策としては、様々な対策を講じたうえで学内の教育・研究環境の維持に尽力された。特に県内大学や高専の学生等も対象としたワクチン職域接種の速やかな実施や、学内での PCR 検査体制の構築、独自開発した二酸化炭素濃度モニターの山口県庁等への寄贈は、学内のみならず、地域の感染症対策という点でも大いに貢献したと言える。

以上のことから、明日の山口大学ビジョン及び第 3 期中期目標・中期計画の達成に向けて努力され、様々な問題に対して国立大学として積極的に取り組まれる姿勢から、学長の業務を着実に執行したと判断する。また、令和 3 年度は、長引く新型コロナウイルス感染症との闘いにも屈せず、学長の指揮のもと、教職員が一丸となり、教育・研究環境の維持、学生への生活支援・精神的支援、学びの継続、地域医療への貢献など、常に工夫し努力を続けられた 1 年であった。

近年、社会及び大学を取り巻く環境が著しく変化し、STEAM 教育の推進、DX への対応、少子化、地球温暖化への対策など取り組むべき課題が複雑化し、このような中、岡学長はリーダーシップを遺憾なく発揮され、在任期間中の様々な功績は、大学の 8 年間の歩みに大いに貢献されたことと感ずる。

岡学長が築き上げた学生ファーストの視点、そして、社会の危機に大学が果敢に挑戦される姿勢を継承し、第 4 期中期目標期間においても、山口大学がさらなる発展を遂げるこ

とができるよう、大いに期待している。

国立大学法人山口大学長選考会議 委員一覧（令和3年度）

職 名	氏 名	ふりがな
株式会社トクヤマ 顧問	安 達 秀 樹	あだち ひでき
山口県医師会 副会長 山口県 公安委員	今 村 孝 子	いまむら たかこ
山口放送株式会社 代表取締役会長	岩 田 幸 雄	いわた ゆきお
株式会社北九州銀行 取締役監査等委員	梅 本 裕 英	うめもと ひろひで
山口トヨタ自動車株式会社 代表取締役社長 テレビ山口株式会社 代表取締役社長	齋 藤 宗 房	さいとう むねふさ
福岡工業大学長	下 村 輝 夫	しもむら てるお
弁護士法人末永法律事務所 弁護士	末 永 久 大	すえなが ひさたけ
宇部興産株式会社 顧問	竹 下 道 夫	たけした みちお
国立研究開発法人理化学研究所 理事	原 山 優 子	はらやま ゆうこ
人文学部教授	横 田 尚 俊	よこた なおとし
教育学部長 教育学部教授	鷹 岡 亮	たかおか りょう
経済学部教授	有 村 貞 則	ありむら さだのり
理学部長 創成科学研究科教授	野 崎 浩 二	のざき こうじ
医学部長 医学系研究科教授	篠 田 晃	しのだ こう
工学部長 創成科学研究科教授	堤 宏 守	つつみ ひろもり
農学部長 創成科学研究科教授	宮 田 浩 文	みやた ひろふみ
共同獣医学部長 共同獣医学部教授	佐 藤 晃 一	さとう こういち
国際総合科学部長 国際総合科学部教授	川 崎 勝	かわさき まさる